

3 鳥取県における A 型肝炎の疫学調査について

【微生物科】

川本 歩・石田 茂・田中 真弓
田川 陽子・本田 達之助

はじめに

A型肝炎は、主に fecal oral route を伝播経路とし黄疸を伴う特異な流行性疾患である。1973年 feinstone らにはじめて発見された A型肝炎ウイルス (hepatitis A virus: HAV) を病原ウイルスとする。

A型肝炎の発生報告は、古代中国、ギリシャの昔から知られ古く紀元前に遡るとされている。血清疫学的にみると、わが国においては、戦後の衛生状態の改善にともなって A型肝炎の流行は減少し、抗体保有率も欧米の近況に近く、HAV 抗体陰性者の増加に伴って、集団発生や大小の流行が報告されるようになった^{1) 2) 3) 4)}。また、1987年から「結核・感染症サーベイランス事業」の対象疾病に加えられて以来、A型肝炎患者数は年々増加傾向にある⁵⁾。本県においても同様であるので HAV の浸淫状況を明らかにし、今後の予防対策に役立てるため、A型肝炎の患者発生状況と HAV 抗体の保有状況を調査したので報告する。

(この調査は A型肝炎調査事業の一部である。)

材料と方法

1 鳥取県における A型肝炎患者の発生状況

1987年から1990年の鳥取県結核・感染症サーベイランス事業報告資料にもとづき患者発生状況を調査した。

2 HAV 抗体保有状況

(1) 被検血清

A型肝炎調査事業により得られた、1990年5月から10月の間に採取された0歳から74歳までの537検体を用いた。20歳以下は、東、中、西部の感染症サーベイランス検査定点医療機関から得られた肝炎疾患を除く患者血清で、21歳以上は東、中、

西部の健康増進センターからの健康成人血清を用いた。

20歳以下は5歳間隔、21歳以上は10歳間隔とした。

(2) HAV 抗体測定方法

HAT・EIA キット (デンカ生研 K.K) を用いて測定し、使用書のとおりインヒビション70%以上を陽性とした。

結 果

1 鳥取県の A型肝炎患者発生状況

(1) 月別患者発生状況 (図1)

患者発生数は1987年11名1988年48名、1989年70名1990年98名で年々増加傾向にあり3月をピークに1月から7月に発生し季節変動がみられた。

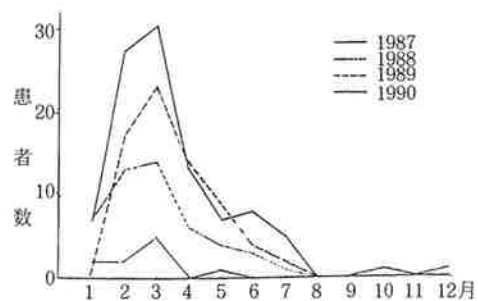


図1 鳥取県における A型肝炎患者発生状況 (1987~1990)

(2) 年齢別患者発生状況 (図2)

年齢別患者発生状況は、調査年により変動がみられ1989年から10歳未満の低年齢層の増加が目立ち、各年とも30歳から40歳代の発生頻度が高く1990年では15歳から20歳での増加も注目される。

発生のピークは、調査年による変動があったが、多発年齢層は、5~9歳と35~39歳であった。

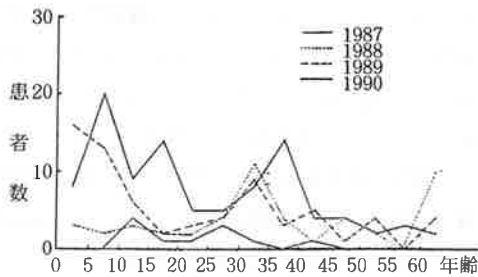


図2 鳥取県におけるA型肝炎患者年齢別発生状況(1987~1990)

(3) 地区別患者発生状況(図3)

地区による差がみられ東、中部とも増加傾向を示したが西部地区のみ減少していた。

また、4年間の集計では、東部94名、中部84名、西部49名であった。

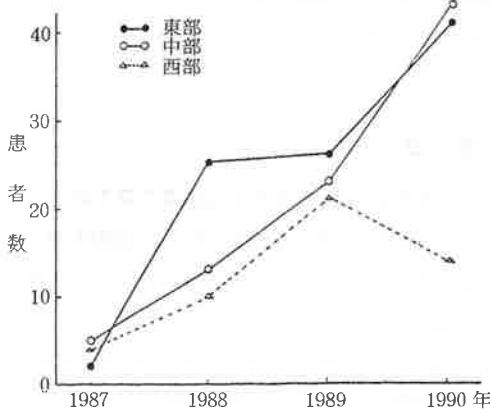


図3 鳥取県における地区別患者発生状況(1987~1990)

(4) 年齢別患者発生状況の性別による比較(図4)

4年間の患者集計では、各年齢層で男性が多いの

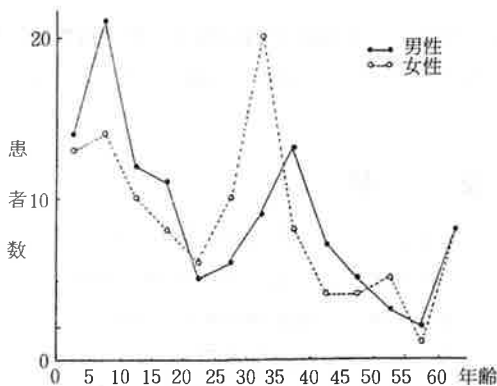


図4 年齢別患者発生状況の性別による比較(1987~1990)

に比べ20歳から35歳までと50歳から55歳の年齢層で女性の方が多かった。4年間の総数の男女比は、1.04:1であった。

2 鳥取県の年齢別 HAV 抗体保有状況(表1)

鳥取県における HAV 抗体陽性率は537例中155例(28.9%)であった。年齢階層別にみると30歳以下の陽性率は10.0%以下、30歳で15.0%と低値であった。40歳代から急上昇して50.0%以上となり60歳以上で91.6%と高くなっている。

表1 鳥取県における年齢別 HAV 抗体保有率

年齢層	検体数	陽性数	陽性率(%)
0 ~ 5	60	2	3.3
6 ~ 10	60	6	10.0
11 ~ 15	60	2	3.3
16 ~ 20	57	0	0.0
21 ~ 30	60	1	1.7
31 ~ 40	60	9	15.0
41 ~ 50	60	32	53.3
51 ~ 60	60	48	80.0
61 ~	60	55	91.6
合計	537	155	28.9

(1) 年齢別 HAV 抗体陽性率の地区別による比較(図5)

地区別に抗体陽性率を比較すると、東部180例中58例(32.2%)、中部180例中53例(29.4%)、西部177例中44例(24.8%)で、東部が最も高かった西部地区で30歳以下0.0%40代30代0.0%と他地区との違いがみられた。

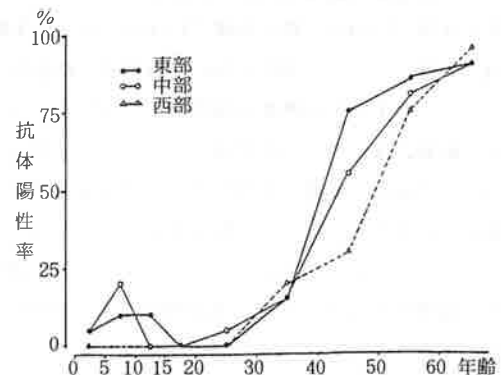


図5 年齢別 HAV 抗体陽性率の地区別による比較